

西東京市 図書館だより

平成24年(2012年) 10月1日

第47号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

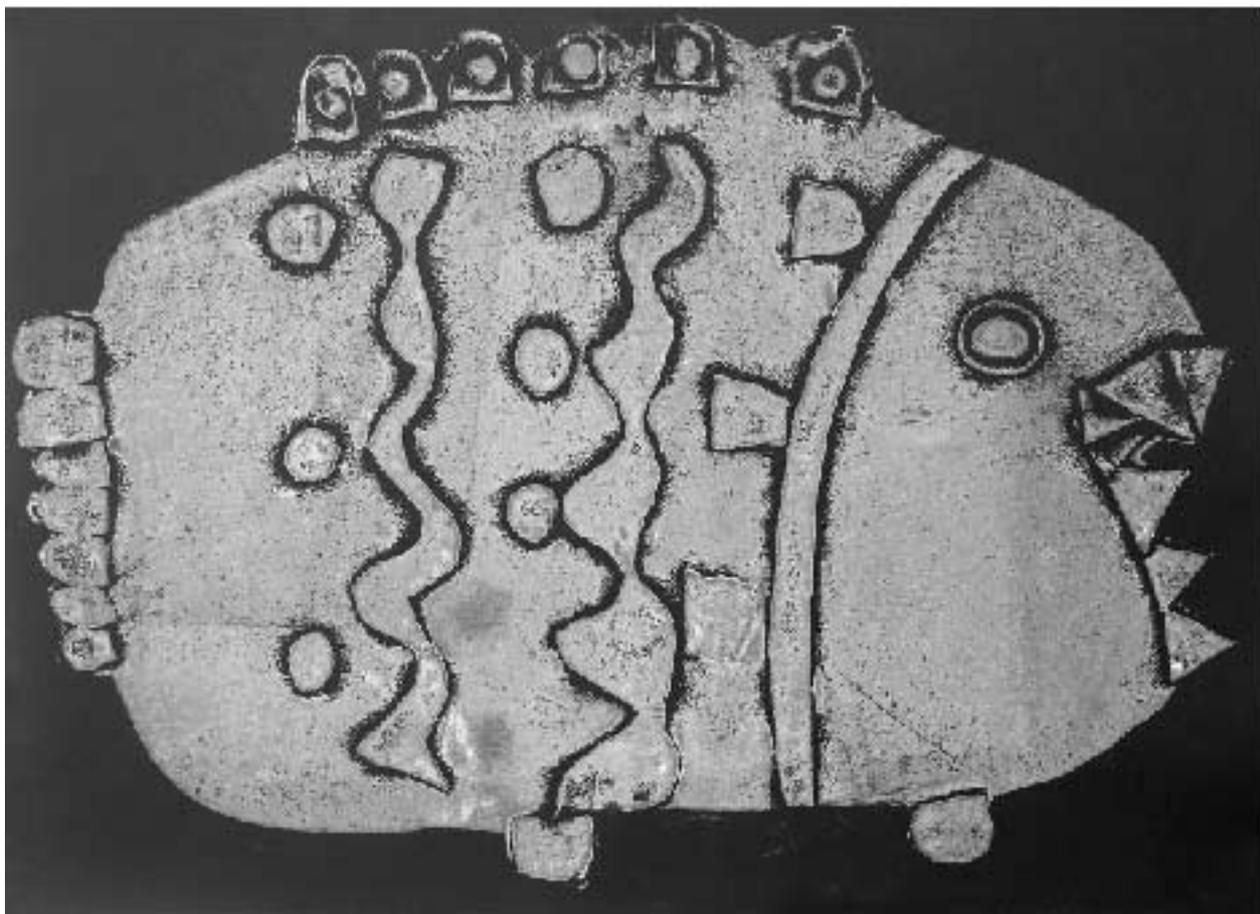
西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



東小3年

快適な空間づくりを

昨年度、西東京市は「公共施設の適正配置等に関する基本計画」を策定しました。その中で図書館施設については、近隣市(清瀬・小平・東久留米・東村山・小金井・三鷹・武蔵野市)や都内同規模自治体の平均的な水準と比較したところ、市の面積に対する施設配置数は多いものの、総施設面積(六館一分室の合計。五、五五七㎡)と市民一人当たりの床面積は小さく、特に中央図書館は近隣市の中で最小であることが記されています。反面、貸し出しや予約の数は平均的な水準を大幅に上回っています。特に駅に近い図書館はいつも混雑し、ざわざわしています。また、中央図書館に関しては、昭和五十年に開館した施設のため老朽化が進み、耐震化等の検討がされているところです。

図書館の大切な機能のひとつに、市民が快適に過ごせる空間、憩いの場を提供することがあります。調べものを静かにすることができる、新聞をゆったり読める空間がある、安心して子どもたちだけで行かせることができる、そのような施設が望まれています。実際、他市で新しく建てられた図書館には、カフェのようなゆとりとした空間があり、快適に利用できます。人口の高齢化に伴って図書館利用者の平均年齢も年々高くなる中、「ゆつくりくつろいだ雰囲気」で新聞や本を読めるスペースをという要望がたびたび寄せられます。厳しい社会経済情勢は続いており、市民が望む図書館施設の建設は容易ではありません。しかし、「市民の図書館」として、情勢の変化を見極めながら、市民が利用しやすい施設の検討を今後も進めていきます。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館(☎421-4545)へお問い合わせを

本・雑誌・CDをお探しのときは、館内利用者用検索機をご利用ください。

館内利用者用検索機(略称「OPAC」)では、お探しの資料が西東京市図書館にあるかどうか、調べることができます。

例えば、第147回芥川賞受賞作の『冥土めぐり』が図書館にあるかどうか調べたり、受賞者の鹿島田真希さんの他の著作を調べたりすることができます。

パスワードを登録していれば、予約することもできます。

OPACは、タッチパネルで操作することも、キーボードで入力することもできます。どちらか、選んでください。

お探しの資料が見つからないときは、カウンターへどうぞ

正確な著者名や題名がわからないとき、特定の本ではなくあるテーマに関する本を探しているときなどは、カウンターへお越しください。職員がお手伝いします。

雑誌を探すとき

平成22年7月以降に発行された巻号については、スポーツ関係やファッション関係などの一部の雑誌を除き、目次情報もデータベースに入っています。

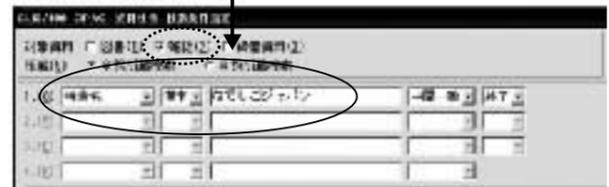
この結果、入力方法として「キーボード入力」を選択すると、検索の幅が広がりました。どうぞご利用ください。「タッチパネル」では検索が限られます。

ある事柄に関する記事が掲載されている雑誌を探すことができます。

検索項目「特集名」、入力方法「漢字」を選んで、キーワードを入力すると、関係記事が掲載されている雑誌を探すことができます。

例えば「ロンドン・オリンピックのなでしこジャパンに関する記事を読みたい」

「なでしこジャパン」と入力してください。
※「カナ」入力(「ナデシコジャパン」)では、検索できません。



「特集名」欄に作家名を入力すると、著作が掲載された雑誌を探すことができます。

例えば「宮部みゆきの最新作を読みたい」

「宮部みゆき」と入力してください。

「特集名」欄に小説などの題名を入力すると掲載誌を調べることができます。

例えば「まだ、本が図書館にないけれど、芥川賞受賞作の『冥土めぐり』を読みたい」

「冥土めぐり」と入力し、検索していくと、『文藝』2012年春号に掲載されていることがわかります。

本を探すとき

本は、題名・著者名のほかに、テーマを手がかりにして探すこともできます。

例えば「東日本大震災に関する本を探したい」

入力方法「キーボード」の場合は、検索項目「件名」を選んで、漢字(「東日本大震災」)、または、カナ(「ヒガシニホンダイシンサイ」)で入力してください。



ジャンルから所蔵雑誌を探すことができます。

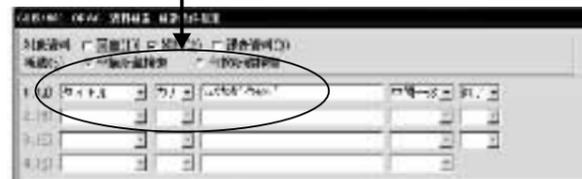
例えば「コンピューター関係の雑誌を探したい」

「分野」欄をプルダウンし、ご希望のジャンルを選んで、検索してください。その分野の所蔵雑誌が表示されます。

一部の雑誌を除き、各巻号の内容を調べることができます。

例えば「『週刊ダイヤモンド』の最新号の内容を知りたい」

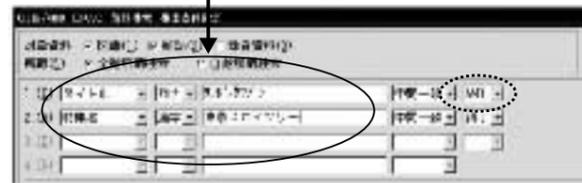
項目として「タイトル」を選び、雑誌名を入力してください。漢字入力、カナ入力、どちらでもかまいません。



雑誌を特定して掲載記事を探すこともできます。

例えば「『散歩の達人』が東京スカイツリーをとりあげた号を読みたい」

項目「タイトル」を選んで雑誌名を入力し(漢字でもカタカナによる読み入力でも構いません)、「AND」を選んで、項目「特集名」も入力してください。



平成23年度の実績報告

(平成24年3月31日現在)

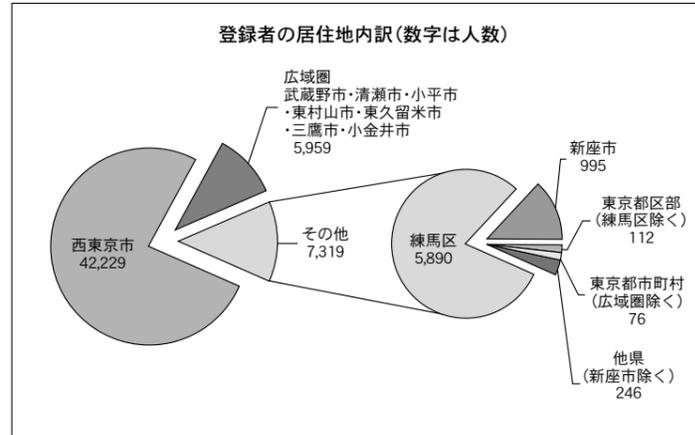
詳細については「平成23年度西東京市図書館事業概要」をご覧ください。西東京市図書館ホームページにも掲載しています。

1. 基本指標

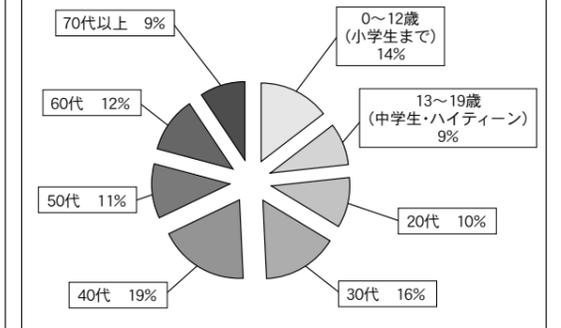
Table with 2 columns: 指標 (Indicator) and 数値 (Value). Rows include: 市民一人当たりの蔵書冊数(図書)(蔵書冊数÷市人口) 3.9冊/人, 登録率(市内在住個人登録者数÷市人口) 21.4%, 一日平均貸出冊数(各図書館の一日平均の合計) 8,535冊/日, 蔵書回転率(個人貸出数÷蔵書冊数) 2.9回, 市民一人当たりの貸出数(個人貸出数÷市人口) 12.5冊/人, 登録者一人当たりの貸出数(個人貸出数÷個人登録者数) 44.7冊/人

2. 登録者数

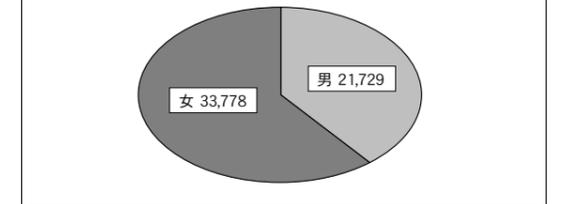
総数 55,507人 ※登録者数は有効登録者数。登録者のうち、当該年度(4月から翌年3月までの1年間)に貸出回数が1回以上ある利用者の数



登録者の世代別割合(%)

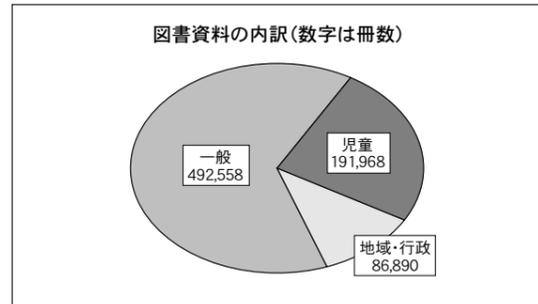


男女別登録者数(数字は人数)

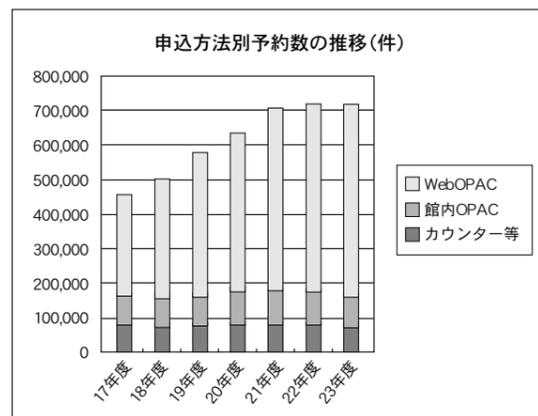


3. 蔵書

Table with 3 columns: 資料種別 (Material Type), 所蔵数 (Collection Count), and 備考 (Remarks). Rows include: 図書(冊) 一般 492,558, 児童 191,968, 地域・行政 86,890, 雑誌(タイトル数) 698, CD・カセットテープ(点) 16,178

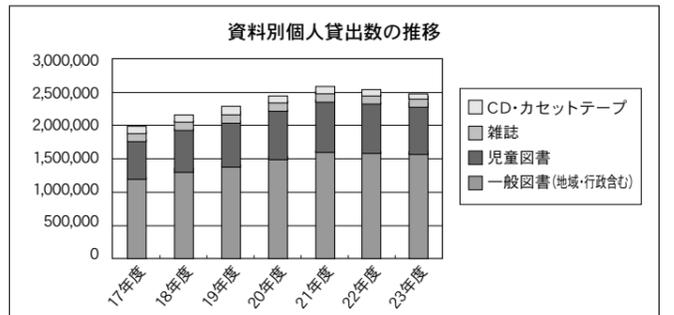


5. 予約数の推移

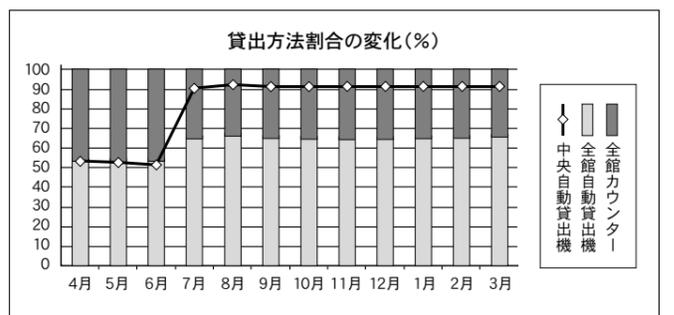


※平成23年7月より、西東京市図書館に所蔵していない資料のリクエストの受付・提供を西東京市内在住の方に限定しました。

4. 個人貸出数の推移



6. 貸出方法割合の変化



※中央図書館は、平成23年7月に予約棚システムが導入され、利用者の皆様に自動貸出機で予約資料の貸出手続きを行っていただくようになりました。

昭和二十年八月十五日、日本は終戦の日を迎えました。この日の出来事は、今でも私の記憶に残っています。六十七年前、当時小学六年生で、夏休みで遊びに夢中に暑い日でした。事前に重大放送があるのでラジオを聞くよう伝えられていました。家族全員で正午にラジオを聞きました。雑音が多く、内容はよく分かりませんでした。戦争が終わったようだと思然と知った世代です。終戦



直後の教育制度は大きく変わり、中学校が義務教育化され、六・三制となりました。国語教育は、戦中習った漢字が制限され、当用漢字に改定され、仮名遣い、送り仮名の付け方も変わって苦労しました。今でも新・旧両方ごちゃ混ぜで覚えているので、用語の確認には辞書を欠かす事は出来ません。そんな時に青春時代を送った私の人間形成の基盤を構築してくれたのが、図書館だったと認識しています。生育過程で、その場面その場面で図書館との出会いを述べてみます。

学生期は、日比谷図書館を主に利用しました。理由は蔵書数と蔵書の質が充実していたからです。開架にある本は少なく、一冊一冊請求票に記入して書庫から出納してもらって館内閲覧する方式で、利用には不便でした。戦災で貴重な図書が灰燼となったことは残念です。今では古書店でも入手は出来ません。

社会人期に、身近な地域に図書館が出来ました。住民本位のサービスを目標としていましたので、使い勝手がよくなりました。利用した分野は仕事に關連した実務書、歴史小説、政治時評類です。現在(高齢期)、私

は利用目的に合った図書館を固定化して利用しています。身近な芝久保図書館は本・雑誌を借りるために利用します。出版社のPR誌、新聞の書評・新刊案内から情報を得て、本を頼みます。無い本は所蔵を調べて取り寄せてくれるのでとても便利です。中央図書館は、調査が目的で利用します。希望する本が都内公共図書館にあるかどうか調べる横断検索をよく願います。

秋風が吹くと読書の季節です。気軽に「まちの図書館」を訪れてはいかがでしょう。

ヘルプ・トショカン
～日本図書館協会東日本
大震災対策委員会の活動～



車体には「HELP-TOSHOKAN」のステッカー

東日本大震災後、日本図書館協会は、被災地の県図書館協会、県立図書館と連携しながら、あるいは、直接的に被災自治体への援助活動を進めてきました。

震災一カ月後に、初めて「HELP-TOSHOKAN」(被災地図書館支援隊)活動として、宮城県気仙沼市を中心に、域内の分館や施設に避難している子どもたちへの児童書を主とした配本、読み聞かせ、上映会などを実施しました。

その後、建物の被災状況や職員体制の問題など被災地の図書館の状況が明らかになると、建物内の危険物を取り除き補修すればよいレベル、建物の再建が必要なレベル、施設も職員も失われてしまったレベル等の個々の状況に応じた支援策を講じてきました。破損した蛍光灯の破片除去作業、施設を失った地域への全国各地の図書館から寄贈された移動図書館車と本の提供、物的被害を受けた地域での図書館に代わる貸出

サービスの実施などです。

このほかにも、図書館家具メーカーや図書館関連企業の協力を得て、東松島市における本にフィルムを貼る講習会の開催、放射能の被害にあった福島県内図書館へのブックトラックの寄贈、被災地の公共図書館への『福島民報』『福島民友』の寄贈、「大活字」図書の寄贈などを行いました。また、復旧復興に取り組む東北の「今」を知ることができるよう、被災地を歩いて見て聞いて知るツアーを開催したり、希望者に被災地図書館の写真パネルを貸し出したりしています。

現在は、多くの地元書店が廃業に追い込まれている現状から、地域文化の大切な要素としての地元書店の復興を関係者の協力により実現していく事業や、今回の震災に關連する事柄をあらゆる角度から総括的にアライブとして次の世代に残す事業なども検討されつつあります。

編集後記

「図書資料の総数」は前年度より一二、五二三冊増えましたが、新しく受け入れた本は、購入したものだけでも三六、六一九冊あります。このような差が生じるのは除籍資料があるからです。また、「登録者数」は減少しているのですが、新規登録者がいない日はありません。数字を正しく読み取ることは、施設計画も含め次に活かす重要な鍵になるのです。